

(様式第4号)

令和6年度 第3回 上田市子ども・子育て会議 会議概要

1 審議会名	上田市 子ども・子育て会議
2 日 時	令和6年7月29日(月) 午後1時30分から午後4時まで
3 会 場	本会：ひとまちげんき・健康プラザうえだ 2階 多目的ホール 検討部会： 【保育・教育部会】ひとまちげんき・健康プラザうえだ 1階 健診ホール 【放課後児童対策部会】ひとまちげんき・健康プラザうえだ 2階 第2会議室 【子育て支援事業部会】ひとまちげんき・健康プラザうえだ 2階 多目的ホール
4 出 席 者	酒井会長、長谷川副会長、浅川委員、安藤委員、飯島委員、大隅委員、片桐委員、小宮山委員、清水委員、下村(久)委員、高井委員、高橋委員、八反田委員、宮下委員、宮本委員、山寄委員
5 市側出席者	室賀健康こども未来部長、櫻井健康推進課長、久保田保育課長、翠川保育課保育担当政策幹、上田障がい者支援課長、長田学校教育課長、加々井子育て・子育て支援課長、戸谷母子・精神保健担当係長、中沢母子・精神保健担当係長、小島母子・精神保健担当係長、中村保育担当係長、大木保育担当係長、原障がい者支援担当係長、宮下放課後こども育成係長、春原子育て・子育て支援担当係長、高橋子育て・子育て支援担当係長、武井こども家庭福祉担当係長、高寺発達相談センター次長、谷口子育て・子育て支援担当主査、北澤こども家庭福祉担当主任、地域計画(株)(福田・中林)
6 公開・非公開	☒ 公 開 ・ ☐ 一部公開 ・ ☐ 非公開
7 傍 聴 者	2人
8 会議概要作成年月日	令和6年7月31日

協 議 事 項 等
1 開 会 (加々井子育て・子育て支援課長)
2 あいさつ (室賀健康こども未来部長)
3 人事通知書交付
4 委員自己紹介
5 事務局紹介
6 上田市子ども・子育て会議について【資料1】 事務局から説明、質問・意見なし
7 会長・副会長の選出 立候補なし、委員から提案(会長：酒井委員、副会長：長谷川委員) 委員賛同により承認
8 議 事 (1) 令和5年度上田市子ども・子育て支援事業実施状況等について ア 上田市子ども・子育て支援事業実施状況等(令和5年度及び令和6年度)【資料2】 イ 令和5年度 量の見込み及び確保の方策に係る実績【資料3】 事務局から説明 (委員) 児童発達相談施設は量の見込みに含まれているか。

(事務局)

国から示されている量の見込みの算出には含まれていないが、事業としては実施している状況。

(会長)

必要あれば市独自で量の見込み等を考えることも検討してほしい。

(2) 第3次上田市子ども・子育て支援事業計画策定について

ア 前回(第2回)会議概要【資料4】

イ 「上田市こども計画」策定について等【資料5】【資料6】【参考資料1】【参考資料2】

ウ 教育・保育、地域子ども・子育て支援事業の量の見込み等の算出について等

【資料7】【資料8】【資料9】

事務局から説明

(委員)

第3次計画中の主な施策として「虐待・ヤングケアラー」と「いじめ・不登校」が並列で表記されているが、各々が独立した問題であり、セットでは捉えられないと考えるがいかがか。

(事務局)

御意見を踏まえ、検討してまいりたい。

(3) 放課後児童施設個別施設計画の改訂について【資料10】

事務局から説明

(委員)

夏休み期間中は放課後児童施設を利用する子どもが普段よりも多く、施設が手狭であると聞く。学校施設、例えば特別室等の使用は考えられないか。

(事務局)

長期休暇中の学校施設は改修があることや、教師不在の際のセキュリティ等課題はあるが、現状の改善の必要性は感じている。次年度以降、個別施設計画にも入れるかを含め、検討したい。

(委員)

保護者会の運営する施設に関しても、個別施設計画や市の改修の対象となるか。

(事務局)

施設は市の所有であり、大規模な修繕に関しては市が対応する。

(委員)

川辺町児童センターが優先となった背景は何か。

(事務局)

多目的トイレの鍵が壊れ使用不可となったことや、利用率が高い施設であることから改修の運びとなったが、他施設の改修希望があることは承知しているので、今後も引き続き検討したい。

9 その他

- ・検討部会協議について

事務局から説明、質問なし

- ・次回日程

令和6年9月26日(木) 午後1時30分から 健康プラザうえだ2階多目的ホール

10 検討部会協議

【保育・教育部会】

(1) 教育・保育、地域子ども・子育て支援事業の量の見込み等の算出について

事務局から説明

・一時預かり事業について

(委員)

児童発達センターに、発達支援が必要な児童から「幼稚園の一時預かりを希望した際、加配保育士の配置が困難という理由から断られた」との声が寄せられている。今計画の検討に当たり、数値だけでなく、中身や質の議論も必要。

(委員)

都市部では一時預かり利用の際は Web で簡単に予約が可能だが、施設側は事前面接等により児童の状況等を確認していると聞く。今後、こども誰でも通園制度の導入も予定されており、施設側が責任を持って受入れできる態勢の整備も必要。

(事務局)

現在も一時預かり利用の際は施設側で事前に面接を行っている。

(委員)

転入者の中には、保育園に空きがなく、一時預かりを利用せざるを得ない場合もある。そのような児童は待機児童にはカウントされないが、一時預かりが保育の受け皿になっている現状がある。

(委員)

自身の上の子どもが通園している園では、昨年度まで一時預かり実施園だったが、今年度から集約化により未実施園となった。下の子どもを預けづらくなり、一時預かりを利用しなくなったが、保育士を効率的に配置するためには、一時預かりの集約化は現実的と考える。サントミューゼ等、既存施設を利用するなど、市内に受け皿が2か所程度あればよい。

(委員)

こども誰でも通園制度は何のために行うのか、市としての理念が必要。理念があれば一時預かりの配置等の考え方も明確になる。

(委員)

一時預かりやこども誰でも通園制度はハード面と人的面の条件が揃わないと実施ができない。委員意見のように実施施設の集約という考え方もある。こども誰でも通園制度等、現在の国の施策は保護者が中心の施策となっているため、市としては子ども中心の考え方で施策を組み立ててもらいたい。

・保育士の確保について

(委員)

保育士養成校の学生は、子どもと接する機会を持っていた学生が多いが、保育園に就職した際にミスマッチが生じる場合もある。ミスマッチの解消や保育園への就職意欲を高めるため、今後も保育現場と養成校が連携し、職場体験の機会を設定していく必要がある。

・量の見込み及び確保方策の数値について

(部会長)

人口推計に基づく数値であり、妥当とする。

【放課後児童対策部会】

(1) 教育・保育、地域子ども・子育て支援事業の量の見込み等の算出について
事務局から説明

・量の見込み及び確保方策の数値について

(委員)

児童館・児童センターの利用児童数について、本来、学童保育所を使いたいニーズとして累積から平均人数を出して加えてはどうか。

(委員)

女性活躍や女性の社会進出により子どもをケアできる時間が取れなくなってくるので、児童クラブの利用の可能性が高くなってくると考えられる。

(事務局)

児童館等の利用者について、放課後児童クラブを利用したいニーズとして勘案し、量の見込みについて一部修正する。

(部会長)

当部会としては一部修正した事務局案を了承する。

(2) その他

(事務局)

前回部会の質問等の回答として、受け皿の混在や利用料については、継続的な検討課題とし、放課後児童クラブと児童館・児童センターの施設の違いについては、各機会丁寧説明をしていく。

また、量・ニーズやハード・ソフトについては、定員と平日平均利用人数には乖離があり、ニーズも変動があるため、中間見直しも含め、継続的に検討していく。あわせて、ソフト面の整備については、モニタリングや利用者の声を聴きながら改善に努めたい。

(委員)

児童クラブの現状等として、夏の暑さ対策が課題となっている。

(委員)

児童クラブにおける職員の人手不足が慢性化してきていることも課題としてあげられる。

(委員)

老朽化する施設整備の財政的な負担が増加するなか、地域資源を活用できるようなマッチング機能について検討の余地があるのではないかな。

(委員)

学校の空いている教室を利用することについても課題ではないかな。

(委員)

地域等でのボランティア活動といった地域でのサポートができる仕組みづくりについてはいかがかな。

【子育て支援事業部会】

(1) 教育・保育、地域子ども・子育て支援事業の量の見込み等の算出について

事務局から説明

・子育て支援コーディネーターについて

(委員)

利用者支援事業の基本型と地域子育て相談機関、それぞれ量の見込み及び確保方策が、各1か所となっているが、子育て支援コーディネーターは増員するのか。

(事務局)

利用者支援事業基本型は現在、中央子育て支援センターを拠点とし、子育て支援コーディネーターを設置し、各支援センターや子育てひろば等に出向き相談等を行っている。地域子育て相談機関は同コーディネーターが相談記録を付けるなど、より深い相談を行い、関係機関に繋ぐ役割も求められるもので、当面は既存のコーディネーターで事業に取り組む予定である。

・病児・病後児保育事業について

(委員)

質の確保もしながら量の確保も行うという事が難しいと考えるが、病児保育について利用しづらいという声も聞く。使いやすさを向上する観点で現在課題や取組等があるか。

(事務局)

利便性向上のため病児保育を委託している上田病院において、今年度、病児保育施設の移転改築事業を実施している。なお、当改築により定員増は見込んでいないが、これまで定員が満員になったことはない状況でもある。感染症等による預かりができない場合もあるなど御理解をいただいている。

- ・ 少子化対策について

(委員)

分娩施設に関して、産婦人科医師数は増えていない現状があり、医師の働き方改革の推進が必要とされている。分娩施設が少ないという地域課題がある中で、分娩の安全性確保という観点からも分娩施設の集約が進んでおり、施設数だけではなく、医師数が増えることで受診の待ち時間の解消にもつながると考える。また無痛分娩を希望する人も増えており、信州上田医療センターでも行っているが、対応可能な医師は少なく、他県からも無痛分娩を希望する患者が来ていると聞く。市が少子化を乗り越えるためにはすべての女性に優しくするということが必要である。

(委員)

命の授業において命の大切さについての土壌作りを、早期から行えばより良いと思う。

- ・ 子育て支援センターの開放時間について

(委員)

子育て支援センターにおける昼時間帯の開所について、クールシェアスポットの観点としても実施していただきたい。

(事務局)

中央子育て支援センターにおける昼時間帯の開所について、施設内で昼食を行えるようにするためのアレルギー対応といった課題を含め現在検討中である。

- ・ 量の見込み及び確保方策の数値について

(部会長)

量の見込みには転入者等も含んでいるのか。

(事務局)

転入者等含んだ過去の数値を踏まえ、人口推計を算出している。

(部会長)

数だけでは測れない部分もあると感じるため、声をしっかり拾うようにしていただきたい。量の見込み及び確保の方策については特段の意見無しとする。

6 各部会閉会